



世界に希望を生み出そう

Rotary International District 2800 山形西ロータリークラブ会報

会長：長澤 裕二 幹事：三沢 大介

地区目標 ロータリーを語ろう そして ロータリーを楽しもう

クラブテーマ 新会員を育てながら、ロータリーを楽しもう

- ◆点鐘：長澤 裕二 会長 ◆ロータリーソング：四つのテスト
- ◆司会：平田 智則 S.A.A. ◆会場：山形ランドホテル



第2991回例会 令和5年9月11日(月)

会長あいさつ

長澤 裕二 会長



先日、八戸に行ってきました。八戸というのは人口がだいたい山形と同じくらい、25万人くらいいるのですけれど、20年前にシネコンが郊外にできまして、市内の映画館が全部なくなりました。その時に八戸の人たちが市民を集めてなんとか映画館を作りたいというような相談を受けました。

そういう動きがあったときに、空きビルがあったんですね、8階建てのビルが。そのオーナーが映画館を作るならなんとか…ということに来てくださったのですが、天井が低いんです。映画館を作るにはすごく小さくて良くないのではないかと、ということなんだけれど、それでもないよりはいいんじゃないかとということで市民の人たちと話し合いをして、じゃあ作ってもらって、自分たちで経営しましょうということで、株式会社八戸フォーラムという会社を作って、20年間経営をしていました。

ところが、最近になってそのビルも老朽化してきて、取り壊してマンションにしましょうということになって、オーナーも「あきらめて売るはー」ということで、映画館を辞めてくれということになりまして、今年の1月で閉館しました。20年間運営して、年間の売り上げがだいたい平均2億円です。計画では3億円の計画だったので、ちょっと少ないんですけど、でも20年間で40億円の売り上げがあってまずまずという結果。でも3億円の目標でやったので若干赤字でした。この2年間、なんとか代替の小屋を作ろう、劇場を作ろうということで市内を探し回らして、いくつか話はあったのですけれど、最近工事費がすごく高騰しまして、昔は4～5億円で作れたやつが今は7～8億円かかるということで、それを借りた場合15年間で返済しなくちゃならないと。今の計画だと年間2億円くらいの売り上げではとてもそういう設備ができないということで、結局あきらめるしかないね、ということで、先週水曜日に集まって会社を解散することに決めてきました。

山形と同じような人口の町で映画館がなくなってしまふというのは非常に残念ですが、一応20年間がんばって、株主たちもみんな歳とって、これ以上は無理だね、がんばっても無理だねということで、解散を決めて終わりになったんですけれど、次の世代、私たちよりももっと若い世代にがんばってもらって作ってもらえればなと思います。

幹事報告

三沢 大介 幹事

- 今年度の年次計画書と会員名簿ができあがっております。皆さんのメールボックスに入れておりますので、ご確認いただければと思います。
- 地区のほうから2つほどご案内が来ております。1つがポリオプラスソサエティのご案内ということで、西クラブの財団とはまた別にポリオ根絶までの寄付をしていただければ、ポリオプラスソサエティという制度があるそうです。毎年100ドルを寄付するということがみたいです。ご興味のある方は事務局までお願いいたします。2つ目が、第21回ロータリー全国囲碁大会開催のご案内が来ております。囲碁に興味のある方、参加したいなと思う方、事務局にお問い合わせをお願いいたします。
- 「みちのくこけしまつり」というものが開催されます。こちらの協賛についてということで、今日の講師であります梅木さんから資料をいただいております。もしこちらご興味のある方は資料等々ございますので、プログラム委員長の長谷川委員長まで、お声掛けいただければと思います。

委員会報告

写楽クラブ

結城 和生 さん

9月6日、パレスグランドにて「カクテルのタベ」を開催いたしました。渡辺正孝氏を講師に迎えて、14名の参加で楽しく過ごさせていただきました。シェーカーやミキシンググラス、バースプーン、メジャーカップなどの器具取り扱い方やカクテル実技や実演をしていただき、美味しいカクテルを楽しみました。19年間本当にありがとうございました。



茶遊会という山形の西ロータリークラブのお茶のサークルでございます。

山形市で今「やまがた秋の芸術祭2023」というのをやっておりますけれども、その一環として私どものほうで七日町のほっとなる広場のところで野点のお茶会をすることになりました。皆さま方もご参集いただければなというふうに思った次第です。市村工務店さんから3畳の茶室を模した茶席の舞台を作っていただきまして、その上で正座しながらお茶を点てて皆さんに飲んでいただくというような趣向でございます。できるだけ皆さま方、山形市民の方々に広くお茶を広げたいという趣旨でございます。一般の方々お気軽にやってくる、というような形でお茶会を開きたいと思っております。

10月9日のチラシを皆さんに配らせていただきました。1枚目は、ほっとなる広場でやる野点のお茶会の件で、2枚目が旧千歳館でお茶会の体験コーナーがありまして、お茶をやってみたいなという人はぜひ旧千歳館のほうに来ていただいて、体験していただければというような趣旨でございます。パンフレットがございますので、持っていただいて従業員の方々とか、ご家族様に紹介いただきまして、ぜひご参加していただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



ニコニコ BOX

〈9月11日〉

戸田正宏さん／梅木直美さんをお迎えして

我が山商卒業生の梅木直美さん、今日は楽しみにしてきました！

遠藤正明さん／ようこそ梅木直美さん

ようこそ西クラブへ。卓話、楽しみにしております。伝統こけしを皆さんに広めてください。

三浦達雄さん／梅木さんのお越しを心より歓迎します

外資系ディーラーにお勤めの際は大変お世話になりました。突然こけし職人になることをお聞きした時はびっくりしました。本日は久しぶりの再会と伝統こけしのお話を聞けることにニコニコします。

市村清勝さん／だるまさん、大切に飾っております

平泉寺初護摩でいただいただるま、大切にしています。今日は楽しみにしてまいりました。

酒巻雅樹さん／『ロータリーの友』に掲載

『ロータリーの友』9月号20ページに愛犬アリスの写真を掲載していただきましたのでニコニコします。昨年末に応募したので真冬の写真ですが、残暑の折、少しでも涼んでいただければ幸いです。

佐藤章夫さん／能楽の祭典

10日、米沢の伝国の社能楽堂で謡曲『三輪』のシテを務めてまいりました。本格的な能舞台で気持ちよく声を張り上げてきました。

中村喜陽さん／サトイモ掘り

9月17日の日本一の芋煮会フェスティバルに先立ち、9月9日、サトイモ掘りボランティアに会社のメンバー、家族ら総勢30名程度で参加してきました。前日の雨の影響もあり、開催が危ぶまれましたが、好天の中、大汗を流しての収穫でした。小ぶりですがおいしい芋煮になることを思い、ニコニコします。

ゲスト卓話



山形のでんとうこけしの
継承と進化

梅木 直美 さん

〔こけし工人〕

皆さまこんにちは。ただ今ご紹介にあずかりました、山形で蔵王系の伝統こけしを継承しております、梅木直美と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

山形市内に生まれまして、場所は泉町というところなんですけれども、小学校は千歳小学校、そして山形市立第四中学校に通っております。四中は今、東小学校がある古いところに、四中に半年間だけ通い、そして次に新しい校舎に移転した四中に通ってまいりました。そしてそのあと山形市立商業高校を卒業しまして、早く働きたくて、最初に就職したのが、流通団地に以前ありましたOA機器の山形リコーという会社でした。

こけしを始めるきっかけがその会社に入ってからなんですけれども、立派な動機なんていうものが全然なくて、私は父がもともとこけしを描いておりました。今はもう現役は引退しておりまして、骨折等でなかなか歩けなくなっているんですけれども、頭ははっきりして、「仕事あるんだが？お前食っていけるんだが？」という感じで、94歳の父から心配されております。

父はもともと木地職人で、いわゆるおぼんやお椀を作ったり、いろんなものを作っておりました。山形でべにばな国体があった時には、トーチのようなものを全て私の父が手掛けたと聞いております。途中からこけしがはやりだして「ぜひこけしをやってみないか」ということで、実は父が初代でこけしを始めました。ですからいわゆる新参者で実は伝統がないんです、父は。それで、ずっとやっておりました。

こけしの愛好家さんというのがよく自宅に、いろんな方がいらっしゃるんですけれども、いわゆるこけし好きのおじさんという方ですね。こけし祭りがあるといつもその方と顔を合わせるので「名前は知らないけど、いつも来るおじさんだな」と思っていて、リコーに入社した時に、その時の社長が「社員全員営業」というスローガンを掲げまして、私は山商を卒業して経理という仕事をしていたんですけれども、全員、コピー、FAX、その当時はワープロ「なんでもいいから1台以上売ってきなさい」という命令が出ました。まだ10代の会社に入ったばかりの私にとっては、それはとてつもなく大きな目標であり、そして社長の命令は絶対、会社の命令は絶対というそんな思いでいたところ、父に相談したら「ああ、んだら俺、藤庄印刷の三戸部さんさちょっとお願いしてみる」と言うんですね。

ずっと小さいころから家に来ていたおじさんが、いざ実はリコーという会社に入ってみたら、大口の取引先の、その当時は常務さんでした、三戸部常務さんという方で、その方に始めてお願いをしました。「コピー機でもなんでもいいので買ってくれませんか」と。「かあ〜」みたいに頭を抱えまして、「条件がある」と。その時に提示されたのが「お前がこけしを描いたら買ってやる」という条件でした。

そこで、私は周りからいつも「あなたこけしを継がないの？」とか言われていたのですが、実のところ、こけしで食べていくというのは大変厳しい状況でして、本当に大変なのを子ども心に知っておりましたので「こけし屋だけには絶対になりたくない」というのが正直な気持ちでした。

ところが会社の命令で売らなくちゃならない、もう1つ

の条件がこけしを描けということだということで、そこで背に腹は代えられない、その当時の10代にとって会社の命令は絶対なので、そこで初めてこけしを描きました。たしか5本だったと思います。父から木地を削ってもらって、まずは描彩だけ。顔と胴と、何本も失敗しながらなんとか5本完成させました。そしてそれが私の初作ということで、こけしの下に自分の名前と、そして何年初作というものを書いて、三戸部さんにお渡ししました。

完成の時に、夜、三戸部さんとあともう1人、デザイン事務所をなさっていて一緒にいろんなカレンダーを手掛けたりなさっていた方、お二人がこんな大きな誕生日のような大きなホールのケーキを持ってきてくださいます。そこには「おめでとう、こけし工人梅木直美誕生」みたいなことが書いてあって、そしてお祝いしてくださったんですね。その当時の写真もあります。

私は何がそんなにめでたいことなのかさっぱり分からなくて、とりあえず私はこけしを完成させた。これで何か買ってもらえる。会社になんとか面目が立つという思いしかなかったんですけども、そのあと本当にコピー機を買ってもらったかどうかは全然ちょっと記憶にないのですが、もしかしら買ってくださったのかどうか分からず、こけしを作らせた三戸部さんだけがいい思いをしたのか、ちょっと覚えていないんですけども、ただそれがきっかけで「梅木修一の娘がこけしを描いたらしいぞ」というのが口コミで広がりました。

その当時、日本にはいろんなこけしの会があるんですね。東京には東京こけし友の会、宮城県には青葉こけし会、大阪には大阪こけし教室、三重県には伊勢こけし会、名古屋こけし会、それぞれ頒布会ということで、毎月だったり2カ月に1回例会を開いてそこでこけしを愛でながらいろんな方と和気あいあいとこけしを楽しむという会が日本全国にありまして、そして日本では3大こけし祭りということで、ここ山形では今年12月2日、3日に開催される「みちのくこけしまつり」、そして一番有名なのが宮城県鳴子温泉での「全国こけし祭り」、それからもう1つ、宮城県の白石市で開催される「全日本こけしコンクール」、この3つが大きなこけし祭りとしてありまして、そしてそこにこけしを出品したりして、いろんな方と、こけしの愛好家さんといういろいろ楽しみながら1年を過ごすというのがこけしの世界なんです。

そんなことで東京こけし会さんとか青葉こけし会さんとかから声を掛けていただいて、私は本当にそこで5本のこけしを描いて終わりのはずでした。一切こけしを継ぐつもりがなかったんですけども、口コミで広まって、注文が入るようになったんですね。そういう例会の頒布で、この月のお土産こけしは梅木直美さんの、この月のこけしは誰それさんの、というふうに、そんな注文が入りましたので、勤めのかたわらこけしを描くようになりました。幸いなことに、副業ということになるのかどうか、その当時の社長にきちんと説明したら「大事なことからぜひ続けなさい」とおっしゃっていただいて、私は続けることができました。そのあといろいろあって、リコーを退職しまして、転職したのが輸入車ディーラーの山形ヤナセという会社です。一番最初に入ったのがアウディでした。そのあと異動になってフォルクスワーゲンに異動して、フォルクスワーゲンで退職しております。その頃も同じようにこけしをやっておりまして、同じように説明したら、「それはとても大事なことなので、ぜひ続けなさい」ということで、私は2つの会社から本当にあたたかく見守っていただいて、今までこけしをやってこれたということがございます。

山形ヤナセを退職してこけし工人専門になると決めた時に、まず父を説得しなければならなかったんです。父はこけしで食べていける状況には全然なかったんですね。趣味程度でいいから、会社をしながら続けなさいということだ

した。ところがヤナセにいた頃には、もう休日のたびにこけしを描いておりました、私には休日というものがなかったんです。普通平日は仕事をして、ヤナセの場合は土日仕事ですし、貴重な月曜日の休みの時にゆっくり寝ようと思うと、父から起こされて、「いづこけし描くんだ!」という感じでたたき起こされて、私は泣く泣くこけしをやるを得ないというような状況でした。

専業になるには不安、でもこのままやっていたら体を壊してしまうという、そんな究極の選択の中で、幸いその頃、新山の古民家ライフ、いろんな古道具を売っているお店の方と出会ったり、「伝統工芸は大事だよ」といろんな方からおっしゃっていただいて、こっちの道に進むのもありかなと揺れておりました。

そんな時に、いよいよ社長に退職の申し出をしました。すると、社長は快く受けてくださって、「もしこけしでダメになった時はいつでもここに帰ってきていいからな」と言っていて、2012年12月に専業になりました。

ところが、辞めてはみたものの、もう今までがこけし会からの注文しかなくて、当然食べていく術がないんですね。そんな2013年の1月に山形市の紅花、山形県の物産ということで、ちょうど長谷川さんが出展されている横浜タカシマヤでの紅花の山形路の山形物産展で出展する新しい人を募集しているというので、ヨウコウジョウの会長さんといういろいろいらして下さって、そこで提示されたのは、すべて自己負担ということでした。宿泊も交通費も。うちの父たちこけし工人が行っていた頃は、日当も出て、交通費も出て、そんな「いい感じ」だったんですね。ところが、今はそういう時代じゃないんです。父は反対しました。そんなところでやっていけるわけがない。でも私はそういう時代しか知らないの、失敗してもいいから行ってみようということで初めて参加したのが横浜タカシマヤの山形物産展でした。

そこで、実は今までのこけし愛好家さんから助けられることになります。私個人にしては、お客様なんて本当にいないんです。でも、こけしを愛して下さるこけし工人愛好家さんが、私が東京に行った、そしてそのあとは京都タカシマヤさんにも呼ばれまして、京都タカシマヤさんにも出展したのですが、その関西、関東の愛好家さんが皆さん「よく来てくださったね」というふうに来てくださいました。さっき長谷川さんが、私のファンでみんなが写真を撮ったりというふうに言ってもらいましたけれども、実は私だけじゃなくて、こけし工人皆さんに同じように接して下さるのがこけし愛好家さんなんです。そんな愛好家さんに支えられて、今こんなふうになっております。

こけし工人になってからは、2015年にイタリア・ミラノ国際博覧会、こけしの絵付けをイタリア人にしてもらおうということで、そんな感じで一緒に行ってきました。一緒に行ったのが笹野一刀彫の戸田寒風さんでした。

そして2016年、全国放送『人生の楽園』に出演することになります。ところが、実際に電話が来たのがその半年前くらいで、師匠にお伺いを立てたところ、絶対ダメだと。ところが『人生の楽園』のスタッフさんは「何年でも待ちますから、ぜひ出てください」と。それで何回か電話をいただいて、その都度「出ません」「出ません」と言っていたんです。ある時、姪っ子がいる時にまたテレビ朝日さんから「ぜひお願いします」と電話がかかってきて、「ダメだ」と断ったところ、その話を聞いていた姪っ子が「贅沢だよ、出たい人なんかいっぱいいるのにさ」と何気なく言ったんです。そしたらうちの父が、やはり孫の言葉は絶対なのか、「お前、もう1回電話してみろ? 今度『出る』って言ってみろ」なんていう感じで、それから電話をしたら喜んでくださって、2016年の2月に『人生の楽園』という番組に出させていただきました。2021年には『岩合光昭の世界ネコ歩き』という番組があるんです。ネコ好きの方はご存じかと思う

んですが、我が家で飼っているネコもそんなテレビに出させていただきました。

自分の思いとは裏腹にいるんなところからお声を掛けていただくようになりまして、一体何をすべきなんだろうと思ったところ、多分仕事をして職人になったというのは当時とても珍しかったので、私を通してこけしを広めていくのが役割ではないかと思い、臆することなく言われたことは「はい」と「イエス」しかないとその当時勉強会に出ていた今野華都子先生の「頼まれごとの返事は『はい』と『イエス』しかないのよ」にそそのかされて、いろんなことを引き受けるようになりました。

ところが、実はいろんな悩みもありまして、ちょうどヤナセに勤めていた頃です。まったく覚えていないんですけども、ある愛好家さんがふらっといらして、私と話をしていました。その時に「あなたのこけしには個性がない」と言われたんです。専門になるまで、20歳から始めて約20年間、ずっと師匠の前でこけしを描いていました。顔を描いて、2～3本置くと、師匠が必ず目を確認するんです。いい顔の時は「よし」、一言だけです。ダメな時はちょっと首をかしげて。それで3つ目がダメな時は「ダメだ、こだな!」という感じで、すぐやり直し。「いい」と言うまで何回も描き直しをさせられました。目がたった1ミリ、0.5ミリ大きくても、「伝統にはこんな顔はない」ということで、伝統こけしというのは師弟関係にあって本当にその作品をそのまま継承するというのが基本なんです。そんなふうに描いてきた中で個性がないと言われて、わからなくなっちゃったんですね。伝統のものを残すのに、個性っていったいなんだろう。ずっと悩み続けていました。そして、専門になって2～3年経った頃でしょうか、東北6県にはいろんなこけし工人がおりまして、福島県の土湯温泉で美しい轆轤の会、「美轆回」の展示会が年に1回ありまして、そこに参加していた時です。一番会長から「お前、いいこけし描くようになったな。こけしでやっていぐってという覚悟でぞだんだな」と一言言われました。それまでは「お前、もうちょっとがんばれよ」「もうちょっとがんばれよ」と、何をどうがんばっていいかわからないんですよ。ところが、やはり専門になってこけしで食べていくということで、いろんな試行錯誤をしながらやっていくのがきっと作品に現れてきたんだと思います。そこで初めて、個性というのは出すものじゃなくて、私の人となりや筆を通じて現れてくるものなんだなというのが、ようやくそこで初めてわかりました。

そこでこれが、自分を整えないといい作品は描けないんだなとわかるようになります。実は京都タカシマヤに行っても、こけし愛好家さんが私をもてなしてくれます。愛好家さんの中には本当にいろんな方がいます。女性の方だったり、そして、例えばフランス大使館の外交官だったり、昔は自分の家の中に交番があるくらい広いお宅に住んでいた方だったり、そういう方がその土地に行くともてなしてくれるんですね。京都に行った時にはお茶屋さんに連れて行っていただきました。「よし、今からカラオケに行くぞ」と言われて、カラオケ？ 京都に来てまで？ と思ったら、いわゆる舞妓さんがいて、その方と一緒に歌うカラオケでした。そのあと、海老蔵さんが鼻肩にしているというお店にも連れて行ってもらったことがあります。なんでここまでしてくれるんだろうと思った時に、「いいか、いいものをたくさん見なさい。本物を見なさい。それが必ず作品に生きてくる」。東京のこけしの実行委員長には「音楽も聴きなさいね。クラシック音楽はいいよ」と。山形には

幸い山形交響楽団があります。私は知り合いが交響楽団員だったこともあって、定期演奏会はよく聴きに行くようにしています。オペラも大好き。中身はわからなくても大好きです。そういった常日頃のことが必ず筆跡、作品に生きてくると思って、今はいろんなものを聴いたり、見たりしています。

実のところ、本当はやりたくなかったのにこけしを継いだというふうには先ほど申し上げましたが、実はうちは本当に生活は大変だったんです。でも師匠、師匠がいつもお酒を飲むと「こけし屋ほど恵まれた仕事はない」と言うんですね。いろんなところでいろんな人がもてなしてくれる。これはこけし屋でしかない。確かにタカシマヤさんで出展すると、いろんな方が来てくださるのは、いろんな手土産を持って、帰りの荷物、空箱がお土産でいっぱいになって、同じように返送したりもします。そして写真を撮ってもらったり、ほかの工芸さんでやはりあまりこういう光景は見られません。やはりこれはこけし屋という独特の世界にいるからだだと思います。師匠がよく「こけし屋ほど恵まれた仕事はない」と言っていたのはそれだと思います。私はそれを多分子どもの頃から聞いていて、もう頭にインプットされていたのかな、そして今それを私も「父が言っていたのはこういうことなんだな」と。私のやることはお客さまに喜んでもらえる作品を作ること。そして販売すること。そして私ができることをやること。それは私ができる形でブログを書いたり、SNSで発信したりして、いろんな方にこけしをわかってもらおうと思って活動しております。ただ、私がブログを始めたのは本当に今から11年くらい前なんです。その当時はブログをやっている方がいらっしやなかったのですが、今はいろんな若い方がブログをやっているの、私は逆に今は控えめにしながら私ができることをやっていきたいと思っています。

とりとめのない話で大変申し訳なかったのですが、改めて自分を思い出すきっかけになりました、このような貴重な機会を与えてくださった皆さまに本当に心から感謝したいと思います。そして12月2日、3日、みちのくこけしまつりがあります。山形市役所さんから手伝っていただきながらやっていますけれども、あと何年開催できるかというところ。ぜひ広告協賛で協力できる方がいましたら、よろしくお願ひします。こんなお願ひで本当に申し訳ありません。本当にご清聴ありがとうございました。

飯田喬之会員

第78回山形県総合美術展 陶芸部門 入賞



第78回県美展にて飯田さんの陶磁器(染付藤花文様花瓶)が見事入選されました。おめでとうございます。

本日出席 (9 / 11)	会員総数	出席会員数
	102名	51名